

市政ニュース

豊岡の活性化に強力な助っ人！ 地域再生計画の認定を受けました

1月22日、豊岡市の地域再生計画が認定され、安倍晋三内閣総理大臣から中貝市長に認定書が授与されました。全国の21自治体が認定を受けました。

これは「環境経済戦略と大交流で地域経済を活性化させるとともに、地域力強化により足元を固める」という本市の戦略が評価されたことによるものです。

中貝市長は「エコバレーと大交流の戦略が評価されてうれしい。これを機に、人口減少対策に今後しっかり取り組む」と述べました。



▲安倍総理から認定書を授与される中貝市長



▲安倍総理、石破茂地方創生担当大臣と記念撮影

本市は、この認定による地域再生戦略交付金などを活用して「小さな世界都市・豊岡」の実現を目指します。

【地域再生制度】

地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出、その他の地域の活力の再生を総合的かつ効果的に推進するため、地域が行う自主的かつ自立的な取組みを国が支援する制度。地方公共団体は、地域再生計画を作成し、内閣総理大臣の認定を受けることで、当該地域再生計画に記載した事業の実施に当たり、財政、金融などの支援措置を活用できる。

異文化理解・交流の貴重な機会！

韓国慶州市訪問団の来訪

1月13日から15日まで、韓国慶州市訪問団（東川初等学校児童など）が来訪しました。

同市とは、平成3年に旧出石町が友好親善都市提携を締結して以来、相互派遣交流を続けています。

訪問団は、13日は歓迎レセプション、14日は港東小学校で児童らと交流し、給食を食べました。また、ホームステ



▲書道を体験する東川初等学校児童

万々に備えて、日頃から準備！

冬山遭難救助訓練を実施

1月30日、冬山遭難救助訓練を旧名色スキー場（日高町名色）で実施しました。

神鍋高原には、毎年多くのスキー客などが訪れていますが、冬山の遭難者の救助は、経験者でな



▲ゾンデ棒取扱い訓練の様子

いと難しく、関係機関の素早い連携が重要です。地元の日高地域では、冬山遭難救助隊を組織しています。

今回の訓練には、豊岡消防署、日高消防団、豊岡南警察署、奥神鍋スキーパトロールなど、関係者が参加しました。訓練は「スキー場で、男性2人がコース外をスノーボードで滑走中、雪崩に巻き込まれた」という想定で、雪上歩行訓練、ゾンデ棒取扱い訓練、要救助者掘り出しを行いました。

主な市政の動き

- 13日・友好親善都市・韓国慶州市訪問団受け入れ（15日）
- 19日・城崎町町内会長会が城崎町湯島大火災害義援金募集（3月20日）
- 20日・第2回城崎町湯島大火災害対策本部会議
- 21日・第2回防災会議
- 豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト体験会Ⅲ「中筋冬の旬を楽しむ会」、22日・報告会「地域から考える心豊かな未来の暮らし方のかたち」
- 22日・地域再生計画の認定書授与式（総理官邸）
- 24日・石川県立津幡高等学校が「千羽コウノトリ」と「千羽トキ」を寄付
- 26日・豊岡市地域公共交通会議
- 28日・豊岡市地域おこし協力隊活動報告
- 30日・冬山遭難救助訓練
- 全国定住自立圏構想推進シンポジウム
- 2月
- 1日・文化財防火デー消防訓練
- 8日・八条放課後児童クラブ専門施設完成見学会

豊岡ライフスタイルデザインプロジェクト報告会

「地域から考える」心豊かな未来の暮らし方のかたち」を開催

豊岡市は東北大学名誉教授の石田秀輝さんと同大学院環境科学研究科准教授の古川柳蔵さんと共同で、ライフスタイルデザインを取り組を進めています。

1月22日、豊岡ライフスタイルデザインプロジェクトの報告会「地域から考える」心豊かな未来の暮らし方のかたち」を「ちち」を開催しました。最初に石田名誉教授が基調

講演を行いました。続いて、古川准教授が、豊岡ライフスタイルデザイン共同研究の取り組みを報告。地域コミュニティ中筋地区代表の今井 悟さんが「中筋の匂を味わう会プロジェクト」の事例発表をしました。

また、前日は、地区との共同事業「中筋冬の匂を楽しむ会」が開催され、地元食材を使った雑煮を味わいました。



▲古川准教授(左)と中筋地区の今井代表

地域に根ざし、地域住民とともに活動

豊岡市地域おこし協力隊活動報告会を開催

地域おこし協力隊は、都市住民など地域外の人材を受け入れ、地域の実情に応じたさまざまな地域活動に携わりながら、併せてその定住・定着を図ることで、地域の活性化につなげる制度です。

本市では、昨年4月に青柳順子さん(東京都出身)と森定佑実子さん(北海道出身)を隊員に委嘱し、竹野浜地域を拠点に活動しています。

1月28日、これまでの二人

の活動を振り返る「活動報告会」を開催し、地域住民など約80人が参加しました。

二人は、まず地域や地域に住んでいる人を知ること、そして自分たちのことを知ってもらうことからスタート。空き家の利活用の検討、地域の魅力発信、体験事業の指導、パンフレットの英訳など、地域住民の協力を得てしてきた活動を報告しました。また「報告会にこれだけ多くの方が参



▲報告する青柳さん(左)と森定さん

加していただき、本当にうれしい。これからも地域を元気にするために、地域の皆さんと一緒に頑張っていきます」と話しました。

中貝市長の徒然日記 88

原稿の苦しみ

「またもやスランプです。たかが1カ月に1回の原稿ではないか、とお思いでしょう。ですが、光陰矢のごとし。昨日秘書広報課に原稿を出したばかりなのに、今日も督促されているような気分です。」

「語ることが一行もないなんて！ああ、なんてつまらない人生なんだ！」とわめいて、「いいんじゃない？たまには」と妻は冷たいものです。

「最近、沖永良部や西予市、出雲市に招かれてコウノトリの話をしに行った、つてのは、どうかな？」コウノトリは、最近なんか書いたでしょ？ダメ」では、首相官邸に行って、安倍総理から豊岡市の地域再生計画の認定書ももらってきたって話は？同じく官邸で、石破大臣が地方創生に関する僕の話聞いて、思わず、うん！と声を出してうなずいたという話は？「イマイチ」

「いたら？」と優しく言ってくれたのと大違いです。

5歳の孫が「じいじ、どうしたの？」「作文ができなくて苦しんでいるんだよ」「ふうん？ばあば、本読んで」とまるで関心がありません。

「いつそのこと、年末に滑って転んで捻挫した話を書いたら？」と妻。「またかって、市民に思われる。かつこ悪い」

実は、過去に、ドイツのホテルのシャワールームで滑って肘に大けがをしたり、早朝、後ろ向き歩きをしていて、道端においてあった三角コーンにつまずいて手首を痛め、手術をしたこともあります。

「市長は完璧だ、みたいに誤解している人もいるみたいだから、いいんじゃない？」「ダメ」そう言えば、市長は「びちびちになった古い背広を大切に着ていて素晴らしい、って褒めていた人がいたらいいよ」「びちびちって、最近のファッションなんだけど」と、だからだと、しかし巧みに近況を織り交ぜて、珠玉の原稿が無事に完成したのでありました。ちゃんちゃん。